

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

沖縄協同病院ICLSコースを開催しました!



目の前の家族の心臓が動かなくなった際、救急隊を要請するのが先ですが、その場にいる方が心臓マッサージ(胸骨圧迫)を行うと、もともとのお話されていたならまた話ができる状態で退院できる割合が高くなります。このように一般の方でも免許はいらず、どなたでも胸の真ん中を1分間に110回くらい、胸が6~5cm沈むくらい、胸の真ん中を押し続ければ頭の機能は守られますので、ストレスはありますが是非実践していただきたいです。救急隊を呼んだからとか、やり方が分からないので躊躇されないようお願いしたいです。

この急変対応を医療従事者がさらに安全に素早く実践できるようになるためにICLSコースというものがあります。ICLSとは「Immediate Cardiac Life Support」の頭文字を取った略語です。突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきか、「急変最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生(そせい)」を習得することを目標に開催されます。

今回あらたに当院12名のスタッフが参加し、朝9時から夕方5時過ぎまで胸骨圧迫の仕方、電気ショックをかける状況(心停止の皆さんすべてに電気ショックをかける訳ではありません)、使用すべき薬をどのタイミングで投与すべきか等、当院のインストラクターと共に学習しました。一人でも多くの方に社会復帰していただけるようこれからも頑張ります。

ICU・HCU医長 佐久田 豊

つながりづくり強化月間に取り組んでいます

沖縄協同病院では10月1日~11月30日の2か月間、組合員を増やすためのつながりづくり強化月間に取り組んでいます。

当院は組合員のみなさんの出資と活動に支えられています。一人ひとりが少しずつ出したお金の、「安心して良い医療が受けられる」病院を運営・継続させていきたいと考えています。そしてみなさんと一緒に優しい病院をつくっていきたくと思っています。お申し込みはお気軽に近くの職員へお声掛けください。

今回はパンフレットを独自に作成し、職員が声掛けしやすいように工夫しました。外来や病棟に貼られているのをご覧になりましたか? また、パンフレットを読んでくださることを期待して風船に貼付け、「ご自由にお持ちください。」ということにしました。お陰様で好評で

3日間でなくなってしまいました。この機会に、ぜひ組合員へのご加入、増資へのご検討をお願い致します。

事務管理部 事務次長
入月 美保子



病院の活動状況 <2024年9月度>

- ・外来一日平均患者数：297人 (前年同月比 -21%)
- ・入院一日平均患者数：249人 (前年同月比 -13%)
- ・組合員利用分量(率)：51.6% (前年同月比 -2.1%)

急性上気道炎と腎障害について

いっしょに読もう

213 血液浄化療法科より



急性上気道炎が流行する季節になりました。急性上気道炎は、多くがウイルス性で、普通のコロナウイルスやインフルエンザウイルスがその代表です。一方、腎臓病は、病気の種類により、急性上気道炎と関係する事が知られています。例えば、紫斑性腎症(イムノグロブリンA腎症)、顕微鏡的多発血管炎などは、多くの患者さんで腎臓病の発症前に急性上気道炎が起っています。ネフローゼ症候群の一部も発症前に急性上気道炎が起っています。新型コロナウイルスの場合、一時、後遺症としての腎障害が話題になりましたが、先に述べた通り、多くの腎臓病でウイルス感染症が先行することから、新型コロナウイルスによる腎障害は通常の急性上気道炎による腎炎と変わらないのかもしれない。しかし、いづれにせよ急性上気道炎の悪化を防いで腎臓を悪くしないことが大事です。

ウイルス感染症に対しては、ワクチン接種が病気の予防につながります。新型コロナウイルスのmRNAワクチンは多くの方が接種されたと思います。しかし、最近、新型コロナウイルスワクチン接種後に腎障害が起る、あるいはもともとあった腎臓病が悪化する可能性があることが多くの国際雑誌に発表されています。実際、そうなるってしまった方もいます。これは、もともと腎臓病が潜んでいる方は、mRNAワクチンによる強力な免疫反応が腎障害を発症または悪化させるのだからと言われています。腎臓に問題がある方は、新型コロナウイルスはリスクをよく考えてから接種した方が良さそうです。

一方、インフルエンザワクチンについては、小児でワクチンが腎炎を発症させたとの報告がいくつかあります。65歳以上の大規模研究では、ワクチンを接種しない集団に比べて、インフルエンザワクチンを接種した集団では腎障害が起る割合が明らかに減っていました。この結果から、高齢の方はインフルエンザワクチンを接種した方が良いでしょう。

内科部長(血液浄化療法科・副院長) 金城紀代彦

献眼について

当院は2023年度から沖縄県臓器提供施設構築事業に参画し研修などを行っています。

2024年8月に当院で2例目の献眼がありました。献眼とは病気等により目が不自由となられた方の角膜移植のため、お亡くなりになった後、角膜(眼球)を提供して頂くことです。今回提供していただいた角膜はレシピエント(待機患者)2名に無事移植されました、とアイバンクより連絡がありました。

「臓器を提供する」「臓器を提供しない」「臓器提供を受ける」「臓器提供を受けない」どちらの意味も尊重されなければいけません。臓器を提供する。移植を受ける。私たちはどちらの立場にもなる可能性があるのです、日頃から一人ひとりが家族と話し、意思表示をすることが大切です。私たち医療者側も患者・家族から臓器提供の意思表示があった時に対応できるよう、今後も連携施設との研修に参加していきます。

ICU・HCU師長 町田 智香



<ご意見(お礼)>

病院の諸先生、看護師、多くのスタッフの皆さん有難うございます。

「命どう宝」正直入院するまでは、ずっと不安でした。毎日祈る様に過ごすのがとても辛かったです。術後も先生の励ましに勇気をもらいました。

隙間のない細かいサービス、気づき、病院での人づくりはとても素晴らしい。先程、看護師さんが廊下で丁寧にワゴンを拭いていました。小さい事ながら気づきはとても大切です。印象的でした。

(6階病棟 入院患者さんより)



こんにちは赤ちゃん

9月生まれ

当院で出生したBabyの写真です



金城虹花ちゃん



城間りひとちゃん



當路そらちゃん

Instagramやってます @okikyo.sanka



私の部署の好いところ

地域連携課は入院や受診調整等を行う前方連携と入退院支援業務を行う後方連携とあり、前方連携5名、後方連携7名、部署長、専任看護師1名が所属しています。患者さんご家族からの相談窓口として、医療機関や介護施設等外部との連携窓口として役割を担っています。

日々依頼や相談が多く電話が鳴り止まない時には心が折れかけることもありますが、部署では業務が遂行できるよう個性豊かなメンバーで優しく、時には厳しくお互いをフォローし合い日々業務に励んでいます。丁寧な対応を心がけていますが至らない点もあるかと思ひます。患者さんご家族の拠り所になるよう勤めていきますので宜しくお願いいたします。

地域連携課 長嶺 希美

地域連携課



委員会活動報告30:広報委員会

広報委員会は、看護、リハビリ、事務部門のスタッフで構成され、毎月1回開催しています。

主な活動としては、今みなさんが手にしている広報誌「はいさい」の発行、病院年報や記念誌の作成をおこなっています。特に「はいさい」では、院内のイベント紹介や、医師による医療記事を毎月掲載し、情報発信しています。

これからもみなさんに楽しんでもらえるような広報活動を目指していきます。

事務局長(医療情報分析室) 平良 千恵乃



ハルサーだより

熱中症

とうとう熱中症になってしまった。原因は明らかだ。トマトの定植の準備と苗を植える時に無理をしたせいだ。9月の中旬、気温32℃ハウス内温度40℃以上の日が続く中でマルチビニールを敷き力二歩まで苗を植える作業をしたのだ。今考えるとぞっとする。作業から2・3日後、だるさが来た。30分ごとに風通しいい木陰で水分を取って休むが座るのもきつくて横になって休む。それでも1500本の苗の植え付けは待ってくれない。だるいだけなので作業を続けた。家に帰り夕食をとるために箸を持ったら小指がガラスマガイ(痙攣)した。そのままになると骨折するのではと思うほどだ。そして座椅子から立ち上るとしたら今度は足の小指が痙攣したのだ。さらに後ろを振り向くと脇腹が痙攣する。初めての経験だ。翌日からはイーバチカーカー(嘔吐)が加わる。食欲もないので体重が毎日1kgずつ減っていく。何か大きな病気ではと恐怖に襲われた。しかし、バスタブに座って冷水を浴びたら楽になったのだ。もしかしたら熱中症?と思い、すぐにネットで調べたら症状がすべて一致した。しかし、原因が大量の汗と共に塩分とカリウムが流れたためとは知らず、軽い嘔吐・痙攣は数日続いた。(トマトのカリウム不足なら症状も対処法もわかるのに)。後になって塩分・カリウムを補うようにと医療従事者の友人達から野菜のお返しにももらった「塩分チャージ」菓子の心遣いがわかった。今では畑のお供になっている。

2週間後、主治医の先生に熱中症になったと話したら「あなたは二つ忘れていることがある。一つ目は年々暑く(熱く)なっていること。二つ目は年々歳をとっていることだ」と諭された。二つ目はウチアタイする現実だ。今どきは還暦過ぎての熱中は命がけだと自覚しなければ...

ハルサー 金城 稲子